

同友会だより

vol. 13 2019. 8. 1

発行：在日韓国良心囚同友会

文在寅大統領の『謝罪の言葉』を受けました！

在日韓国良心囚同友会・代表 李 哲

長い間支援してくださった皆様、友人の皆様。

今日は皆様に素晴らしいお知らせができることを、本当に嬉しく思います。去る6月末、G20会議のため大阪に来られた文在寅大統領は、6月27日の大阪同胞懇談会の席上で在日同胞スパイねつ造事件の被害者に対して、大統領として国家を代表し、謝罪の言葉を述べてくれました。そしてまた、「スパイねつ造事件の真相を究明し、被害者たちの心の傷を癒すためにこれからも努力していく」と約束しました。私たちは40数余年の長きにわたって、我們在日同胞良心囚を救援し、支えてくださった皆様方とともに、この歴史的な謝罪の言葉を心の底からこみ上げる熱い感慨をもって受けとめたく思います。

在日同胞スパイ事件がねつ造されはじめてから40数年が経って、亡くなられた方々も多く、あまりにも時が流れたという思いはあります。しかし私たちが長年願い、望んできた国家としての謝罪、温かい慰労に満ちた文大統領の謝罪の言葉を、私たちは震える胸の高鳴りの中で聴きました。

文大統領も言われたように、私たちは軍事独裁時代の不当な裁判のやり直しを求め、2011年の



最初の再審無罪から現在まで36名の無罪判決と、2016年度から始まった旧西大門拘置所での在日良心囚たちの展示室の開設。また特に昨年（2018年）12月に同友会は、韓国版ノーベル平和賞ともいわれる第3回「民主主義者・金槿泰賞」を授与されたことなどに力を得ながら、司法府による無罪判決だけではなく、国家を代表する大統領の謝罪を望んできました。

この謝罪の言葉を聞いたとき私たちは胸が熱くなり、まるで夢を見ているかのような気持ちでした。私たちは、大統領のこの温かい謝罪の言葉を、長い間、救援し支えてくださった皆様方とともに噛みしめ、心の深いところにしっかりと刻んでおこうと思います。

私たちは、このニュースレターをお送りしながら、皆様と共に喜びを分かち合い、これからもまだ解決していない多くの方々の再審無罪勝利と、韓国民主主義の発展のために少しずつ頑張っていく所存です。今後も皆様の温かいご支援をお願いしながら、簡単ながらここにご報告いたします。

皆様、本当にありがとうございました！

これからもよろしくお願い致します！

（2019年7月21日 李 哲 拝）



在日同胞懇談会での文在寅大統領の謝罪の言葉

(2019年6月27日)

(中略)

在日同胞の皆さんは、経済発展の力強いよりどころとなっただけでなく、大韓民国の民主化においても犠牲と献身をもって共にしてくださいました。軍部独裁の時代に多くの在日同胞青年たちが公安統治のためにねつ造されたスパイ事件の被害者になりました。

昨年(2018年)12月、「在日同胞留学生スパイねつ造事件」の被害者たちが集まってつくった「在日韓国良心囚同友会」が、「第3回民主主義者・金槿泰賞」を受賞しました。今年初めまでに、ソウル高裁でスパイ団ねつ造事件の被害者に、34人目の無罪が宣告されました。

再審で無罪判決が続き、民主化の功労者として認められはしましたが、心の深い傷を癒やし、奪われた時間を取り戻すには、あまりにも不足しています。政府は真実を究明し、傷を治すための努力を続けていきます。

何よりも独裁権力の暴力に深く傷を負われた在日同胞ねつ造スパイ事件の被害者の方々と、御家族の皆さんに対して、大統領として国家を代表して、心からの謝罪と慰労の言葉を申し上げます。

《社説》40余年ぶりの「スパイねつ造」を謝罪／今は国家が出るべきとき

2019.7.1 ハンギョレ新聞

文在寅大統領が27日、大阪で開かれた在日同胞懇談会で過去のスパイねつ造事件について公式に謝罪した。現場にいた事件の被害者たちと、訴訟のために国内に来ていたねつ造スパイ被害者たちは、この発言を聞き「目頭が熱くなった」と言う。事件が主に1970年代から1980年代初旬に起こってから、約40年ぶりのことである。

今まで「国家の謝罪を聞きたい」と言ってきた被害者たちも、「国家を代表した」文大統領の謝罪に少なくない意味を付与した。多幸なことではあるが、あまりに遅かったといえよう。それにねつ造スパイ事件の被害者たちが再審を通して無罪を

宣告された比率が、全体の20～30%という実情であるから、これからも道のりは長い。

文大統領が在日同胞370名を招待して催した晩餐会場には、在日本大韓民国民団の関係者だけではなく、在日韓国良心囚同友会の李哲代表、兄弟スパイねつ造事件の被害者である徐勝氏などもヘッドテーブルに座った。

文大統領は「軍部独裁の時代、多くの在日同胞青年たちが公安統治のためにねつ造されたスパイ事件の被害者となった」として、独裁権力の暴力に深い傷を負った被害者の方々とご家族に、大統領として国家を代表し心からの謝罪と慰労の言葉を申し上げる」と語った。そして「政府は真実を究明し、傷を癒すための努力を続けていく」と約束した。

この約束が空文句に終わらないためにも、政府次元でなすべきことが少なくない。参与政府の時代に設置された真実和解委員会は、日本出身の在日同胞スパイ事件の被害者を130余名と推定している。この中で再審で無罪を宣告された人は27日に無罪を受けた鄭勝淵氏を含めて30余名に過ぎない。初めから我が国の司法体系に不信を抱き、再

目次

- 文在寅大統領の『謝罪の言葉』(李 哲) ……1
- 文在寅大統領『謝罪の言葉』(部分訳) ……2
- 報道(ハンギョレ新聞／共同通信／朝日新聞) 2
- ソウルで聞いた大統領の謝罪文(金元重) ……4
- 民主主義者・金槿泰賞(ハンギョレ新聞) ……4
- 故崔哲教氏に再審無罪判決(韓国日報) ……5
- 鄭勝淵氏の再審無罪公判(住谷章) ……6
- 金五子さんの再審裁判傍聴記(若松敏幸) ……7
- 金五子さんの再審報道(ハンギョレ新聞) ……8

審に消極的だった人々が真実和解の活動を契機に、法的な名誉回復に乗り出したが、個人的にせざるを得ないという理由のために、まだ数としては多くない。文在寅大統領も明らかにしたが、スパイねつ造事件は独裁政権が公安統治のために、ねつ造した事件が大部分である。祖国の軍事独裁について問題意識を持っていた学生・市民たちが、その犠牲羊となった。拷問の後遺症で世を去ったり、

いまだ精神的な苦痛の中に生きている人も少なくない。

国家が犯した犯罪行為である限り、国家が特別法などを通して一括して解決することが正しい。在日韓国民民主統一連合（韓民統）のように反独裁民主化運動によって反国家団体と見なされている場合も、今は政府が出て解決すべきである。

スパイ事件ねつ造で謝罪 文在寅氏、在日韓国人に初

2019.6.27 共同通信

韓国の文在寅大統領は 27 日、大阪市内で在日韓国人らと懇談し、韓国の軍事独裁政権時代に多数の在日韓国人が公安機関の拷問捜査で「北朝鮮のスパイ」にでっち上げられた被害に言及し「独裁権力の暴力に深く傷ついた被害者たちと家族に、大統領として国家を代表して心から謝罪する」と述べた。韓国大統領が在日韓国人の事件ねつ造被害で謝罪するのは初めて。

韓国では 1987 年の民主化まで独裁政権期に公安機関が留学や商用で韓国へ渡った在日韓国人をスパイとして摘発する事件が頻発した。当時、救援運動を行った市民団体の集計では少なくとも 160 人が摘発された。

しかしこうした事件の多くが、令状なしの監禁と拷問で虚偽自白を強要し、嫌疑自体が捏造されていたことが、元被告らが近年求めた再審で続々

と明らかになった。文氏は 27 日、34 人が再審で無罪判決を受けたと指摘し「政府は真実を究明し、傷を癒やす努力を続ける」と表明した。

懇談には 75 年に連行されて死刑判決が確定、後に減刑されて 88 年に釈放された康宗憲さん（67）＝京都市、2015 年に無罪確定＝も出席し、謝罪を直接聞いた。康さんは「市民の力で生まれた政権を担っているとの使命感を感じ、感銘を受けた」と話した。

文氏が日本で在日韓国人らと懇談するのは、17 年 5 月の就任後初めて。文氏は日韓の若者は双方の文化を愛好していると指摘。「政府も（在日の）皆さんがやってきたように、いかなる困難にも揺らがない韓日友好協力関係をつくるため努力する」と語った。

（共同・栗倉義勝）

在日韓国人留学生「スパイ」でっち上げ 文大統領が謝罪

2019.6.27 朝日新聞

韓国の文在寅大統領は 27 日、韓国が独裁政権下にあった 1970 ～ 80 年代に多数の在日韓国人の留学生らが韓国の情報機関によって「北朝鮮のスパイ」にでっち上げられて拘束された人権侵害に言及し、「独裁権力の暴力に深く傷ついた在日同胞の被害者と家族に、大統領として国家を代表して心から謝罪する」と述べた。韓国大統領が在日の元政治囚をめぐる人権侵害で謝罪するのは初めてとみられる。

文氏はこの日、主要 20 カ国・地域首脳会議（G20 サミット）に参加するため大阪市に入り、在日韓国人約 400 人を招いた懇談会に出席し、その席上

で謝罪した。懇談会には、70 年代にソウルの大学に留学中に北朝鮮のスパイなどとして当時の韓国中央情報部の拷問捜査を受け、死刑判決を受けながら 2015 年に無罪が確定した大阪市の在日韓国人、李哲さん（70）らが招かれた。李さんは「思いがけないことで、大変うれしく思いました」と話した。

韓国の市民団体によると、87 年の民主化までに情報機関は多数の在日韓国人の留学生やビジネスマンらを「スパイ」として摘発。被害者は約 160 人に上るとされる。

（武田肇）

ソウルで聞いた文在寅大統領の謝罪文

—鄭勝淵氏の再審無罪判決と UN「国際拷問被害者支援の日」記念行事に参加して—

金 元重

大阪での G20 に参加した文在寅大統領が、在日韓国人約 400 人を招いた晚餐懇談会があった 6 月 27 日、私はソウル高等法院 502 号法廷で鄭勝淵さんの再審無罪判決を傍聴して、喜びを分かち合った。金鐘太さん、姜鐘健さん、住谷章さん、渡辺一夫さん、石井寛、金榮珍さんらも一緒だった。いつものように張慶旭弁護士事務所の建物の地下食堂で、鄭勝淵さん、妹さん二人を囲んでお祝いの午餐をとった。しかし、「まだ物足りない、仲間内でまた飲もう」と、夕方に仁寺洞で待ち合わせて、もう一度、祝杯を挙げようということになった。

韓国料理店で祝杯を重ねながら、話題はもっぱら大阪での文大統領主催の晚餐懇談会に。というのも、そこに李哲さん、康宗憲さん、李宗樹さんが、在日韓国良心囚同友会として招待されていたからだ。皆の酔いもだいたい回ったころ、取材に当たっていた共同通信の栗倉デスクからのメールが読み上げられて、一斉に大歓声が上がった。文大統領が、独裁政権時代に多数の在日韓国人が公安機関の拷問捜査で「北朝鮮のスパイ」にでっち上げられたことに言及し、「独裁時代の暴力に深く傷ついた被害者たちと家族に、大統領として国家を代表して謝罪する」と、正式に謝罪したというのだ！期待を超える謝罪メッセージに思わず涙ぐみなが



ら、さらなる乾杯を夜更けまで重ねた。

翌 28 日午後 3 時から、国会議員会館小会議室で人権医学研究所・金槿泰記念治癒センター主催の「UN『国際拷問被害者支援の日』記念行事」が開かれた。共催団体との一つとしての在日韓国良心囚同友会代表として李哲さんに代わって参加した私は、あいさつの中で、ハンギョレの記事を読み上げながら、前日の大統領の謝罪文が、私たちの胸をいかに熱くしたかを語った。

そして、この大統領の在日良心囚に対する謝罪文には、良心囚同友会が昨年（2018 年）末「第 3 回民主主義者金槿泰賞」を受賞したことにも触れているように、韓国の人権団体、弁護士の皆さん、ハンギョレ新聞をはじめとする民主的メディアの記者たちのご支援の賜物だと、感謝と連帯の意を表した。

民主市民の賞を受け、40 年余り積もった“恨”が解けた

2018.12.31 ハンギョレ新聞

在日韓国良心囚同友会に「民主主義者・金槿泰賞」李哲・閔香淑・金元重氏が代表として受賞

「この場の多くの民主主義者たち、民主化運動の市民たちが共にして下さるということだけでも、私たちはもう完全に解放され、救われた。」

李哲（70）在日韓国良心囚同友会会長は去る 28 日、ソウル聖水洞聖水アートホールで開かれた「第 3 回民主主義者 金槿泰賞」受賞の感想をこう述べた。

彼は「3 年前に日本で開いた 11・22 事件（中央情報部が在日韓国人留学生など 20 人をスパイ団としてねつ造した事件）40 周年行事の際、咸世雄

神父が来られて、私たちに“皆さんが当時の国家権力によって酷い扱いを受けていた時、私たちは何の助けもできなかった。そのことについて心より謝罪し許しを乞いたい”とおっしゃった。私たちは咸世雄神父に許しを乞われる立場ではないが、その言葉を聞いて積もっていた“恨”が半分は解けた気がした。今回、名誉ある金槿泰賞を受けるにあたり、残りの“恨”も完全に解けた」と話した。1990 年に日本で結成された在日韓国良心囚同友会は、これまで在日同胞の地位向上だけでなく、韓国良心囚の招聘講演会、北朝鮮住民への食糧支援

などの活動を行ってきた。授賞式には李哲会長と夫人 閔香淑（67）さん、金元重（67・千葉商科大教授）氏が代表として参加した。

高麗大政治外交学科に留学中だった李会長は1975年12月、中央情報部に連行されて、拷問によってスパイにねつ造され、死刑囚になり、婚約者だった閔香淑氏も懲役3年6ヵ月を宣告された。金元重教授（ソウル大経済学科留学）も11・22事件でスパイにねつ造されて懲役7年の刑を宣告され、服役した。かれら3名を含め、今まで再審で無罪を宣告された在日同胞は34人にのぼる。

金槿泰賞選定委（委員長 申庚林）は受賞決定文で、「この賞は破壊された青春を乗り越えて再び



起ちあがり、連帯の手を差し延べ、希望の力を見せてくれた在日韓国良心囚同友会に捧げる尊敬と感謝であり、その人たちを裏切った祖国に代わって捧げる深い謝罪であり、二度と大韓民国をそのような卑劣な祖国に作らないという、私たち



▲「第3回民主主義者 金槿泰賞」を受けた在日韓国良心囚同友会の李哲会長と夫人 閔香淑さん、金元重氏が、昨年の受賞者である民衆音楽の作曲家ユンミンソク（左端）氏から受賞決定文を伝達されている。（写真：金ジョン Chol 記者）

の約束」だと明らかにした。

授賞式に出席したソルフン議員は、「1977年の民主化デモで投獄された時、死刑囚で手錠をかけていた李哲会長に会った。死刑執行があった日、罪のない在日同胞が引っ張られて行かれたのではないかと、胸が裂けるような思いをしたのを覚えている。地獄のような時代を勝ち抜いて監獄を出た後にも、祖国の民主化のために貢献してきた人びとに感謝を捧げたい」と述べた。

授賞式では、住民が少しずつ負担し合ってアパート警備員の減員を防いだ蔚山市太和洞「リバースイート」の入居者たちに特別賞が授与された。

（金ジョン Chol 記者）

スパイ集団ねつ造の常連の在日同胞で34人目、冤罪を晴らす

2019.2.26 韓国日報

《再審申請3年ぶりに無罪判決》1974年に三兄弟の長男が訪韓／拷問と脅迫により三兄弟全員をスパイにねつ造

「遅ればせながら今回の再審裁判の無罪判決文を、アボニム（お父様）とヒョンニム（お父お兄さん）の霊前に捧げてさし上げたいです」。

2018年12月のソウル高裁302号法廷、「漢拏山2号」というスパイだと烙印を押され、7年間の監獄生活を強いられた崔青教（82）氏が、最後陳述ですでに亡くなっている兄と弟を思い出しながら、積もる想いを切々と語った。それから1ヵ月もたたずに、崔氏の夢は叶えられた。1月17日、ソウル高裁刑事2部（部長判事・車文鎬）は「不法な逮捕・拘禁と拷問で強要された陳述には、証拠能力がない」として、崔氏兄弟事件に対して45

年ぶりに、無罪を宣告した。

崔氏三兄弟の悲劇は、解放後、日本に渡って生活していた長男の故・崔哲教氏（2013年死亡）1974年4月、家族に会いに韓国に帰ってきたときに国軍保安司令部（保安司）の要員に連行されて始まった。保安司は長男の崔氏が日本から2度工作船に乗って北朝鮮へ入国して、主体思想教育とスパイ指令を受けた後、次男の崔清教氏と三男の故崔台教（1995年死亡）氏、崔台教氏の友人・金種湔（74）さんを包摂して軍事機密を盗み出したとの汚名をかぶせた。眠らせず正体不明の薬を投与して、崔哲教氏は自身が誰なのかすら分からない状態で調査を受けた。

保安司は、同時に「国家保安法」と「反共法」違反、スパイ罪、軍事機密漏洩罪をひっくるめてかぶせ

た。崔氏三兄弟はもちろん、周辺の人々も保安司に連行して「赤」につくりあげた。金種湔氏は「スパイ番号を与えられた奴ひとりぐらいいは、生き埋めにしてしまえる」という脅迫を受けたと明らかにした。

「保安司の調査室の机の上に置かれたゴムホースと名前の分からない拷問道具。隣室で聞こえてくる悲鳴が与える恐怖心で、法廷に至るまで自由な陳述が不可能だった」。朴正熙政権は、崔氏三兄弟をそのようにして在日同胞スパイ団事件をでっち上げた。

しかし、検察と裁判所は暴行と脅迫のうちになされた陳述を、証拠として採択した。「1969年に建設された牡丹峰競技場を、1965年に見学した」とか、「北朝鮮に訪問していた期間中に、日本で仕事をしていた記録」など、各種の誤りは無視された。1974年、ソウル刑事地方裁判所は、長男の哲教氏に死刑宣告、翌年、大法院で確定した。弟らと金氏も懲役刑を宣告された。

この三兄弟事件は、1978年に保安司が発刊した本「対共30年史」に、主要な捜査実績として紹介されもした。

在日同胞の長男・哲教氏は、日本の活動家が韓日政府と国連を相手に粘り強い救援運動を展開した結果、1990年に釈放された。だが家族の傷は癒えることはなかった。互いに罪がないということを知りながらも、恨（ハン）を抱えた心で家族の



▲再審無罪判決が下された1月17日ソウル。ソウル高裁前で、死刑宣告を受けた長男の故崔哲教氏の長女・崔鐘淑、故人の妹の崔ジョンソンさんが故人の遺影を持って中心に立った。【張慶旭弁護士提供】

縁が断絶されたこともあり、再審の道は遠かった。

李錫兌、張慶旭弁護士の粘り強い説得により、家族は2016年に再審を申請し、3年後に無罪判決を受けることができた。

資料によると、崔哲教氏はスパイねつ造事件にまきこまれて再審で無罪が確定した34人目の在日同胞だ。過去の独裁政権時代にねつ造された在日同胞スパイ事件関連者は、160人余りにのぼると把握されている。

崔哲教氏の長女・崔鐘淑（57）氏は「親族らのスパイの汚名を晴らし、再審過程を通じて断絶させられた肉親の情を、再びつなぐことができるようになってうれしい」との所感を明らかにした。

（チョン・パンソク記者）

2019年6月 鄭勝淵氏にソウル高等法院が再審無罪判決！

住谷 章

■鄭勝淵氏のソウル高等法院再審公判の日程と傍聴行動。

第1回公判：2019年4月18日「冒頭陳述」。

第2回公判：2019年5月14日「証人調べ（実妹）」

第3回公判：2019年6月27日「無罪判決！！」

第1回公判の日は午前中に金五子氏の裁判があり、午後に鄭勝淵氏の第1回裁判が開かれました。鄭勝淵氏とは、その日の前日に李東石氏から紹介されて、始めてお会いしました。

「11・22事件」の在日良心囚たちとは大田矯導所で同房だったので、同友会の人々とは獄中での知り合いだそうです。

その時に伺った話によると、鄭勝淵氏は大阪（難



波近く）で小学校時代を過ごし、済州島に帰国されましたが、高校卒業後に再び来日して建国高校に編入し、その後、法政大学を卒業されました。

1973年に国軍保安司令部に不法連行されて、1年間もの長期にわたって保安司令部に拘束され続

けられました。その後起訴されて15年の刑を受け、大田矯導所に収監されました。

そして、1981年に釈放されました。現在は、東京にお住まいです。

毎回、裁判には済州島のご家族、ソウル在住のご家族をはじめ、韓国の知人、友人が傍聴席を埋めました。

第3回の判決公判では、裁判長が無罪宣告の後、長年の苦勞をねぎらい、不当な判決を下したこ

とを謝罪されました。しかし検察が、公判では一切反論もしないまま大法院に上告したため、現在も再審裁判は継承中です。

私たちは、鄭勝淵氏に対する大法院の早期無罪判決を求めると同時に、70年～80年代に不当に拘束された多くの在日韓国人政治犯が、まだまだ再審申請をすることができないまま、また再審申請をしないままにある原状を踏まえて、これからも粘り強く完全無罪獲得まで活動を継続していきます。

金五子さんのソウル高等法院での再審裁判 傍聴記

若松 敏幸

(元「立命館大学・金五子さんを救う会」メンバー)

金五子さんの再審第1回公判が、2019年4月18日11時、ソウル中央高等法院西館302号室で開かれました。「11・22事件」で一度は極刑を宣告され、その後無期懲役に減刑、約9年間もの教導所生活を余儀なくされた金五子さんでしたが、43年ぶりに法廷に立って、自身の無実を訴えました。

この日の初公判では、再審の控訴理由としてKCIAでの脅迫的な取り調べの中で「自白」が誘導されたものであるため、事件自体が不当であることが主張されました。また、金五子さんが日本での民族差別による被害者意識を背景に韓国留学を志したことや、極刑の娘のために多くの犠牲をはらって拘置所・教導所まで来てくれた母親への感謝の言葉が涙ながらに語られました。

第2回公判は6月18日に開かれました。判事から検事に対して、追加的な証拠資料の提出が求められていましたが、検事側からは当日の朝になって証拠目録が提出されるというありさまでした。「証拠提出に2ヵ月かかる」と言っていた検事でしたが、新たな証拠提出ではなく、過去の裁判の証



By 若松敏幸

拠目録を出すのが精いっぱいだったようです。

第3回公判が7月9日10時20分に開かれました。わずか20分ほどの公判でしたが、この日で審理は結審しました。李相姫弁護士から、これまで34名の在日同胞の無罪判決が出ていることや、その34人目の判決を現在の判事自身が出していること、そして改めて本事件の不当性が訴えられました。

最終陳述では、金五子さんは声を詰まらせながら無罪の訴えを行いました。そして、驚くべきことに検事が判事に対して「無罪にしてやってください」と、無罪求刑をしました。韓国語が分からない我々日本人傍聴者は、閉廷後に廊下でその話を通訳してもらって知り、驚きと同時に安堵感、喜びの感情が広がりました。

判決公判は8月22日ですが、その判決を聞くまでもなく「無罪」の確信が得られて、もう勝ったも同然の心地でした。金五子さんが、「周りの景色が違って見えます」と、これまでの不安感から解放される喜びの発言をしていましたが、傍聴に

【金五子（キム・オジャ）さんの略歴】

- ・京都府で生まれ、1972年韓国へ留学。釜山大学校入学。
- ・1975年10月：韓国中央情報部（KCIA）により逮捕され、11月22日「学園浸透スパイ団事件」（11・22事件）の間諜（スパイ）として発表された。
- ・1976年4月30日ソウル刑事地方法院で、反共法、国家保安法違反で死刑判決を宣告。同年8月26日ソウル高等法院で無期懲役判決。同年9月4日大法院への上告を取り下げ刑が確定した。
- ・1984年8月：特赦で大邱矯導所から釈放される。
- ・2018年：ソウル中央高等法院へ再審を請求。

かけつけた韓国内外の救援関係者も同じ思いだったと思います。

この第3回公判は、G20 サミットで来日した文在寅大統領が6月27日に発表した「謝罪の言葉」の後であったことも、影響しているのでしょう。

40年もの長い年月、多くの方々の救援の努力と、韓国民主化の闘いが切り開いた歴史的到達点に、今の状況があることを実感しています。

8月22日の判決公判には、ぜひとも多くの皆さんの注目をお願いします。

韓国検察、在日同胞スパイでっち上げ事件被害者に“無罪”求刑

2019.7.9 ハンギョレ新聞

9日、ソウル高裁判事2部（裁判長チャ・ムンホ）審理で開かれた「在日同胞学園浸透スパイ団事件」（いわゆる「11・22事件」）の再審公判で、検察が被害者の金五子氏（69）の無罪を求刑した。金さんが、朴正熙政府時代の中央情報部によってスパイの汚名を着せられてから45年が経ってのことだ。

文在寅大統領は、6月27日、主要20カ国・地域（G20）首脳会議参加のために日本を訪問し、大阪同胞懇談会で現職大統領としては初めて、在日同胞スパイでっち上げ事件について謝罪した。

1975年11月22日、金淇春・中央情報部対共捜査局局長は「在日同胞学園浸透北朝鮮スパイ団」事件を自ら発表した。金部長は「北朝鮮の指令で留学生を装い韓国国内に潜入した北朝鮮スパイ党」とし、「在日同胞13人を含む大学生21人を検挙した」と明らかにした。逮捕された学生の中には、釜山大学史学科の73年度入学生で在日同胞の金五子氏、大学生の金ジョンミ、盧スニイル、朴ジュンゴン氏、哲学科教授の河イルミン氏などが含まれていた。

2019年4月18日に開かれた1次公判で被告人席に立った金五子氏は、44年前に対共分室で加えられた拷問を、苦しみとともに思い起こした。「お前はスパイだ。だから当然、死ななければならない」。金氏が対共分室で聞いた最初の言葉だったという。

「いきなり私の両頬を力いっぱい9回殴りました。その時以来、左耳が聞こえなくなりました。暴力と脅迫が夜遅くまで続き、自殺しようと歯磨



1975年 金淇春・中央情報部対共捜査局長の在任当時の姿

きを口に入れたが飲み込むことができませんでした」。「拷問以上に恐ろしかったのは、ひょっとして性暴行をされるのではという恐怖でした。この席で話すことは辛いですが、恥ずかしい拷問は本当に耐え難いものでした」。

拷問と脅迫の末に、金五子氏は「お前たちが話せば、すぐに日本に送ってやる」という懐柔に乗せられ、疑惑を自白した。だが懐柔は嘘だった。金さんは1審で死刑、2審で無期懲役を宣告された。その後、仮釈放されるまで9年を刑務所で過ごした。

「金五子氏に対して無罪を求刑します」。拷問の後遺症で耳が遠く、補聴器をつけた金五子さんは、この日の検察の無罪求刑を聞くことはできなかった。「法廷では検察の無罪求刑を聞くことができず、法廷から出た後に伝えたら、泣いていました」。金五子氏の弁護を務めた、李相姫弁護士が説明した。

金五子氏の再審事件の宣告公判は、8月22日に予定されている。2018年4月、裁判所は金五子氏とともに起訴された金ジョンミ、盧スニイル、朴ジュンゴン氏に無罪を宣告した。

再審裁判等の進行状況（2018年11月～2019年7月）

1月17日	崔哲教さん	高裁判決公判	無罪判決 !!
6月27日	鄭勝淵さん	高裁判決公判	無罪判決 !!
7月9日	金五子さん	高裁第3回再審（結審）	（次回・第4回公判：8月9日予定！）